

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 10月13日

【評価実施概要】

事業所番号	2276600381
法人名	有限会社アートプロジェクト
事業所名	グループホーム竜洋の家
所在地 (電話番号)	磐田市掛塚1778-1 0538-59-2120
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町4番1号
訪問調査日	平成21年8月24日

【情報提供票より】(平成21年8月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	22 人	常勤 15人 / 非常勤 7人 / 常勤換算	13.2 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り 3階建ての1階～3階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	¥35,000	その他の経費(月額)	¥10,000
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	昼食	
	夕食	おやつ	
または1日当たり ¥1,000			

(4)利用者の概要(平成21年8月8日現在)

利用者人数	24 名	男性	5 名	女性	19 名	
要介護1	3 名	要介護2	7 名			
要介護3	7 名	要介護4	7 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85.4 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	みのりハートクリニック 高橋歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

遠州灘と天竜川が近いせいか、ホーム周辺の風景は明るく、稲の穂の上を渡る風も爽やかな恵まれた環境の中で利用者の暮らしが営まれている。開設当初からの利用者も含め平均年齢85.4歳の持てる力を出来るだけ引き出すことに職員は日々努めている。この一年、食事が給食利用から手作り食になったこと、先日は初めての納涼祭が家族や地域の方々も参加して盛大に行われたこと等前向きな取り組みが見られ、利用者に喜んでいただけた充足感は誰よりも職員が感じている。これらの取り組みにより職員の連携や力量も確認され自信も深まった。今後職員の話合いから一層の支援の充実が図られることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善課題であった運営推進会議の2ヵ月毎の開催は委員や家族の協力もあり定期的に開催されている。一覧式の面会簿はプライバシーを考慮して一葉式に改善された。家族からの意見の収集方法の工夫と地震等有事の際の対応マニュアル整備と地域との連携は今後の課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、ホーム長は評価の意義をよく理解し、毎日の支援が惰性に陥りやすいところを評価によって振り返る機会にしたいとの謙虚な姿勢で取り組み、各ユニットごとに全職員が夜勤や空いた時間を利用して関わり、それぞれが飾ることなく事実を記述している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 家族、自治会長、市役所職員等をメンバーに運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催されており、利用者の状況説明、行事予定等を議題としている。消防署の協力により消防講座を開いたり、自治会長に幼稚園との交流を打診してもらう等利用者へのサービス向上に繋がるよう活用している。地域民生委員の参加依頼を提案したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 運営推進会議に家族も出席し意見を集約している。また面会時には報告の後で「何かご希望がありますか」と言葉を添えて意見や要望を引き出しており、出された意見は職員で話し合って対応している。要望や意見は改善のために不可欠であることを家族に理解していただき、忌憚のない意見の収集に努め運営への反映を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入して地域の一員として防災訓練や草刈にも参加している。住所を移した利用者は老人会へも参加が可能である。掛塚祭りにはホームの駐車場に屋台の引き回しが来て利用者を喜ばせてくれる。地域の方も心安く、生産の野菜や花をいただくこともある。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を理解し、職員で作上げた理念「よりよい信頼関係を地域と共に築き優しく笑顔で接しましょう」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営推進会議やホームの行事を活用して地域の方々と交流できるよう努めており、日々利用者の気持ちを汲取り、意に沿える支援で信頼関係を築くよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して地域の一員として防災訓練や草刈に参加している。住所を移した利用者は老人会の参加も可能であり掛塚祭りにはホームの駐車場に屋台の引き回しが来て利用者を喜ばせてくれる。地域の方も心安く、生産の野菜や花をいただくこともある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、ホーム長は評価の意義をよく理解し、毎日の支援が馴れ合いにならないよう、評価によって振り返り、気付きを得たいとの謙虚な姿勢で取り組んでおり、前回の評価に対しても多くの改善が見られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月に1回開催されている。消防署の協力により消防講座を開いたり、自治会長に幼稚園や子供会、老人会等との交流を打診してもらう等利用者へのサービス向上に繋がるよう活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する事業者連絡会に出席して情報交換したり、指導を受けており、円滑な運営に資するよう共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の健康状態や生活状況、連絡事項等を項目ごとに書き込んだ月次報告書を写真を添えて毎月家族のもとへ送付している。また家族面会時に情報交換したりユニットによっては職員の異動も伝えている。緊急の場合には電話やファックスにて伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も出席し意見を出してもらっている。また面会時には報告の後で「何かご希望がありますか」と言葉を添えて意見や要望を引き出しており、提示された意見は職員で話し合って対応している。	○	利用者や家族からの要望や意見はホームの質の向上のために不可欠であることを家族に理解してもらい、忌憚のない意見の収集に努め運営に反映できるよう取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動もあり、職員の交代は止むを得ないところもある。日ごろから他のユニットへ応援に行く等でコミュニケーションを図り、馴染みの幅を広げる事で利用者に出るだけ影響を与えないよう配慮している。	○	利用者と職員の馴染みの関係を保つことの大切さを理解され異動を抑えるため、更に法人との話し合いや協働の取り組みを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による研修制度がある。定期的なフォローアップ研修も義務付けられている。年3回のレポート作成により褒章も受けられ張り合いを持って自己研鑽できる制度もある。	○	ホームの質の向上は常に課題であり、意欲を持った職員に応えるべく定期的な内部勉強会の実施が望まれる。年間計画による系統的な勉強を積み重ねてより大きな成果となることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他の事業所と交流し、情報交換する機会を持っているが職員は系列ホーム間での異動以外に殆ど交流の機会がない。	○	他事業所との交流により視野を広げ刺激を受けることは自信を持ち、ひいては利用者へのサービス向上に繋がる。他事業所と協力して相互訪問の実現を願いたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新しい住まいとなるホームが利用者に馴染める場であるか本人がホームを見学し、本人が来れない場合には家族に確認してもらっている。またホームから会いに行くなどして情報を収集して生活歴の理解に努めこれまでの生活が継続できるよう図っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームの方針として出来ることはやっけておいており、洗濯や掃除等職員と一緒にやっている。最年長の利用者は来客をもてなすように職員にしきりに世話を焼いており、そのやり取りは壮年の職員も敵わないほど軽妙で楽しいものであった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で常に利用者に声をかけ、アセスメント聴取や面会時には家族と積極的に話しをしている。また、申し送りノートで一人ひとりの思いや希望などの情報を共有して、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員関係者は、利用者や家族の希望・意向に沿って話し合い、個々の状態に合わせた具体的な目標をかかげた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の更新時に介護計画を見直しており、3ヶ月毎のモニタリングの際や日常における心身の状況に変化が見られた場合は、職員・関係者が話し合い、随時、見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望・状況に応じて、受診介助や買い物・理美容訪問・歯科医の往診など、一人ひとりの満足を高めていけるよう支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望する医療機関への受診を第一とし、家族の同意を得て、ホーム協力医への受診介助をしている。また、場合によっては往診してもらうなど医療機関との関係を築く努力をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族には、重度化した場合の対応や終末期のあり方を説明し、利用者の状態に応じては医療機関も交えて話し合い、承諾書をもらうなど家族の意向を大事にした対応を図っている。職員は、看取りの経験をしている者もあり、看取りに関して向上意識を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者へは優しく丁寧な接し方や言葉かけを心がけており、プライバシーに関しては声を潜める配慮をしていた。また、面会名簿を個別のカード式に変更したり、利用者の記録物を鍵付き戸棚に保管するなど個人情報の保護に努めていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが、利用者のその日の体調やペースに応じて、できる限り個別の支援をしている。一人ひとりのその日その時の気持ち・希望を尊重するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	4月より、毎日3食、職員当番制で宅配食材を使った手作り調理をしている。利用者の希望メニューを取り入れる事もあり、野菜の皮むき・食器拭きなど利用者一人ひとりの力を活かして職員と一緒にを行うよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回、午後2時からであるが、利用者の希望で毎日の入浴や入る順番の配慮もしている。時には、ゆず湯にするなど、ゆったりと入浴できるよう努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草取り・洗濯たたみなど、利用者一人ひとりの経験や力を活かした場を設けたり、また、ぬり絵や歌を歌ったりと楽しみ事も一緒に行っている。その他、ボランティアの音楽演奏を聞いたり、今年より納涼祭を開催して、家族も一緒に楽しめる機会を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩を日課としており、利用者のその日の体調・希望に沿って対応している。また、年に数回、公園への遠足や花見などの外出も楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、利用者が黙って外出してしまった事があり、近くに大きな幹線道路もあって危険を伴う為、やむなく玄関の鍵をしめている。利用者の希望時には外出や他ユニットへの訪問をしている。	○	施錠の状態を良しとせず、問題意識をもって、鍵をかけず安全に過せる工夫と職員の見守りや声かけで鍵をかけない支援をお願いしたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回の防災訓練を実施しており、AEDの講習も受けている。台所はIHヒーターを使用し、火災報知器・消火器の設置や非常用品の準備をしている。	○	災害時の対応や対策について、さらに地域住民や消防署・警察署と話し合い、具体的なマニュアルを作成する事によって地域との協力体制を築いていくことが望ましい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有している。また、宅配食材を使用することで栄養バランスも考慮しており、お粥やとろみ食に対応するなど利用者一人ひとりの体調や状況に合わせた支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、毎日の掃除やワックスがけにより清潔感があり、居間の大きな窓と大きなソファでゆったりとくつろげる場になっている。採光が強い時には、利用者の希望を聞いてカーテンの調節を行っていた。また、利用者の絵や行事の写真などを壁面に張り、生活感・季節感を出す工夫をしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の要望があった時は、話し合っって対応しており、ベットか布団かを選ぶことができる。また、家具など使い慣れた日用品を持ち込んだり、写真など好みの物を飾ることで居心地よく過ごせる配慮をしている。		